



斜堆積物であり 東北日本の構造区分のうち 北部北上帯の北方延長部に含まれる。本岩類から化石の産出が無いために時代決定は難しいが岩相的には渡島半島南部で石炭紀後期に属する松前層群と酷似する。

- 中生代白亜紀には大規模な花崗岩類の貫入があり 基盤は隆起を伴う地塊運動を受けている。その大きなものは遊楽部岳ドームであり 先第三紀堆積岩類は 熱変成によってしばしばホルンフェルスとなっている。

5 万分の 1 地質図幅の新刊

遊楽部岳
YURAPPU-DAKE

5 万分の 1 地質図幅
地域地質研究報告

著 者 石 田 正 夫 (北海道支所)
 発 行 工業技術院 地質調査所
 取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

○ 遊楽部岳地域は 西南北海道渡島半島中央部にあり 日本海と太平洋側の内浦湾とに挟まれて 東西の幅が約 25km 程度の最も狭い部分に位置する。行政区画上 大半が八雲町に属する。“ユーラップ”は八雲の前地名であり 語源はアイヌ語で“温泉の流れる所”の意である。八雲と改称されたのは 尾州藩徳川慶勝の旧臣が 蝦夷地(北海道)の開拓のためこの地に入植するに当たり 故郷の歌 “八雲立つ 出雲八重垣つまごめの 八重垣つくる その八重垣を” にちなんでとのことである。地名は変更されているが まだ 遊楽部岳 遊楽部川 遊楽部公園などに現在もその名が残されている。

○ 基盤をなす先第三紀堆積岩類は 砂岩 粘板岩及びチャートの互層からなるフリッシュ型の深海性地向

- 新第三紀中新世前期には いわゆるグリンタフ変動に伴う火成活動の激化とともに徐々に沈降が始まり 白別層以降の厚い地層を堆積させ 八雲期に沈降が最大となる。八雲層堆積後は 一般的に隆起に転じ 黒松内層 瀬棚層に見られるように海退相を示し 浅海性の砂岩及び礫岩が卓越する。
- 第四紀では 八雲から上八雲地域にかけて 遊楽部川右岸側に 海拔 20~360 m まで 9 段を数える見事な段丘の発達が特徴的である。
- 遊楽部岳図幅では 新第三系の層序を詳しく述べるとともに 化石その他の資料によって 時代論や構造的な位置づけを行っている。この地域は 従来から西南北海道層序の模式地の一つ(八雲層)でもあり この報告は 各種の研究あるいは巡検などの際に大いに役立つものである。

地質ニュース	第 330 号 2 月 号
昭和 57 年 2 月 1 日	定 価 ￥ 540 千 実 費
編 集	発 行
発 行 人	工業技術院 地 質 調 査 所
発 行 所	林 久 雄
	株式会社 実 業 公 報 社
	東京都千代田区九段南 4 の 2 の 12
	Tel. (03) 265-0951 (代表)
	振 替 口 座 東 京 3 2 4 6 6
総発売元	大 蔵 省 印 刷 局 政 府 刊 行 物 仕 入 部
	東 京 都 港 区 赤 坂 葵 町 2
	Tel. (03) 582-4866